

●午前の部 10:00~12:00

○音声認識技術を利用した日本語発音練習システムの開発

岩田之男(学校法人長沼スクール東京日本語学校), 清水政明(大阪大学),
西村尚(学校法人長沼スクール東京日本語学校)

音声認識エンジン「AmiVoice[®]」に日本語学習者誤用データベースを組み込み、日本語学習者の発音判定及び発音練習ができるシステムを開発した。発音判定では有声音⇔無声音、つ→ちゅ/ず、長音⇔短音など、39の音素・音声レベルのエラータイプが指摘可能となっている。学習者はこの結果を基に、苦手とする発音を集中的に練習することができる。また、管理者は管理画面より全学習者の進捗状況を把握することもできる。本発表では、システムの概要、並びに長沼スクールでの実際の利用方法についても紹介する。

●午後の部 13:45~15:45

○コンピュータ・ベースの日本語発話能力評価システム

堀川有美((独)国際交流基金日本語試験センター),
和田晃子(元(独)国際交流基金日本語試験センター),
野口裕之(名古屋大学大学院)

多くの受験者を対象とした口頭能力テストでは、実施条件を統制して試験の公平性を確保し、さらに、採点・評価の客観性・効率性を高める必要がある。そのようなテストでの応用を目指し、コンピュータ画面に表示した評価票を用いて受験者の発話資料を評価するシステムを開発した。このシステムでは、評価基準や評価手順の説明及び自動集計などを組み込み、評価者がコンピュータの画面上の指示に沿って評価作業を進めていけるようにした。デモンストレーションでは、実際にコンピュータの画面上での操作を通してこの評価システムを紹介する。

●午前の部 10:00~12:00

○日本語文法のハイパーメディア事典(NBHJ)

Marcella Maria MARIOTTI(国際基督教大学)

「日本語文法ハイパー辞典」(以下、NBHJ)は日本語文法の学習と習得を目的とする企画である。NBHJでは、学習者は体験者となり、CMやチラシ、WEBページや携帯メールなどの日常の日本語を通じて、文法項目を発見・選択・探求し、自分なりに情報をネットワーキングできる。

NBHJはMI理論に対応すると同時に、外国語習得に不可欠である「楽しさ(pleasure)」,つまり右脳に当たる感情領域も刺激する。現在開発中のイタリア語版(*Dizionario ipermediale della grammatica giapponese*)と英語版(*An Hypermedia Dictionary of Japanese Grammar*)のサンプル項目を紹介する。

○日本
中e-
語本
を
は
時

●午後の部

○コロケ
坂井開
支援
語の
代目
名詞
た。1
的に
本○コンピュ
今井新
中園博J-CA
で利用
カレベ
90分程
す。成
り、団
です。●12:20~12:50
《日本留学記》
(独)日本学生●12:55~13:25
《日本語教育》
(財)日本国際教